

めだか大学通信 8号

2012・9

ほんとにすごい夏でしたね。無事に過ごしたのが不思議なくらいです。6月30日のショック？が残っているせいか各グループともいささか低調でしたが、そんな時間も必要でしょうね。しかし「すみれ分教場」だけは暑い北海道で、ホットな活動を展開しました。順を追ってご報告いたします。(岡田)...

「すみれ分教場」 9月1日～5日

中村夫妻の愛娘「真歩ちゃん」の結婚式が北海道の苫小牧市で行われ、メンバー全員がここに集結しました。一年前に移住した渡辺日朗・美智子夫妻と合流した、中村由紀男・京子夫妻・村上さん・船岡さんの6名です。

結婚式の中では、中村京子さんが、娘に送る『あなたにありがとう』を三日かかって作り上げ、みんなで歌いました。集まったみなさんは、とても新鮮に聴いてくださったと思います。

渡辺日朗さんは、やはり九月二日から三日ほどかかって、笠木講座で作った「北の大地のホームカフェ」の詞をシンプルに書き直し、『ホームカフェ』として曲も出来上がりました。美智子さんは、歌のもとになる詩を二篇書きました。夫(日朗さん)のお父さんのことを書いた『私の中のジージョ』と、『11歳の秋に』です。メンバーはみんな大喜びでした。

渡辺夫妻と岡田は9月3日に、千歳アイヌ協会主催で行われた「アシリチェプノミ」(新しい鮭を迎える儀式)に参加しました。久しぶりに見るアイヌの貴重な儀式でした。

千歳の東雲会館というところで、日朗さんが準備してくれた「歌の会」(年金者組合の共催で)が開かれました。この地でアイヌの研究を続けておられる平井史郎さんやアイヌの方の参加も得てみんなでアイヌのうたのいくつかも歌い、最後には京子さんの『思い出す手』由紀男さんの『君には何が見える?』を聴いてもらい、それから小林千賀子さんの『秋の空』をみんなで歌いました。苫小牧から千賀子さんの友人の方も参加されました。『水の歌』や『ピースナイン』も歌いました。『ピースナイン』は、村上さんが踊りのコーチもしました。踊りと言っても、立ち上がることは中々難しいので、座ったまま手を動かすやり方を考えていく必要を感じてきましたが、今日はそのやり方でみんなとても楽しそうでした。

終わって、参加された方たちの何人もが「自分も作って見たい」と言われたとのことで嬉しかったです。と言うわけでフル回転の「すみれ」でした。

「つくり小屋」 9月9日

静岡県島田市より、笠木講座の参加者だった柴田鉄世さんが参加しました。みかんとお茶を作りながら市の職員として勤務していて、彼が作った『神座みかんの歌』は岡田の『誰でもみんな音の種を持っている』という本に収録しています。今日も早生みかんとたくさん持ってきてくれました。『神座ミカンの歌』をみんなで歌いました。

それぞれの近況を聞き、作品のプランなども聴きました。岡田が北海道の(前述)の報告などをしました。

三宅さんが、20日あまりの入院中作った幾つかの短い作品や詩をみんなで歌ったり読んだりしました。曲の方は、例によってみんなでモンクを言ったりしましたが『国民学校一年生』という詞は、三宅さんの子ども時代の真実がつまっているようで、替え歌にして見ては、と岡田が提案しました。

稲川さんは、千賀子さんの詞につけた『七夕』の曲に二番の詞がほしいと考え中でした。みんなで歌ってみて、大体キマりました。

放課後、柴田さんの補講に三宅さんと今井さんが加わってくれました。『娘に寄せる歌』です。彼は来月も参加出来そうなので、楽しみです。

「にんじん畑」

久し振りの桑原さんの参加でした。暑いのでみんなも私もアタマがボーッとしてしまっで、特に新しい作曲のプランもなかったし、何をどうしていいかちょっと真っ白的でしたが、気を取り直してこれまでのみんなの作品をまた歌いました。これはやっぱりなかなか良い方法で、いつやっても新鮮だし懐かしいし、飽きないし、歌えば歌うほど何かがつみかさなっていく、不思議です。その上、この現象は「つくり小屋」でも「すみれ分教場」でも全く同じなのです。

そのほか、小林千賀子さんの『石巻』と笠木・岡田で作った『ふくろうの子守唄』を歌いました。『石巻』の後に歌うと、なぜかところが静まる気がするのです。

「うた小屋」 9月21日

今日は、9月25日に、「ハムケ歌の会」で初演する山田三重子さんの『ソネリ四部作』と、10月5日にクッキングハウスの夕食会の時歌うつもり、三宅宗議さんの『うた』のけいこで終始しました。この日はみんないろいろと用事があって、人数が少なくてちょっと心配しましたが、稲川さん、今井さんの他、大畑さんが来てくれて、ウタヒメが3人揃ったので練習はスムーズに行きました。山田さんも朗読のけいこを一生懸命やりました。

もう一つは『うた』です。三宅さんが三年前のクッキングハウス主宰の笠木コンサートの時、ステージに上がった「ままや」と「クッキングハウス」の人たちの歌を聴いて、その感動を詞にしたのが『うた』です。大分前から、クッキングハウスにこれを届けなくてはと思っていましたが、やっと10月5日にみんなで金曜日の恒例の食事タイムに参加して、そこでご披露しようということになり、そのけいこもしました。この日のことは、次の通信でお

届けできると思います。

さて、次の10月19日のうた小屋は、さしあたっての出演のけいこはないので、来られる方たちの作品を、久し振りにみんなで歌ってみようと思います。自分の作品でやってみたい楽譜を、それぞれ1曲につき10枚ほどコピーして持ってきてください。友人の方たちも興味ある方、歌ってみたい方をお誘いください。

「ハムケ歌の会」 9月25日

主宰の、李和蓮（り・ふありょん）さんの大きな理解と協力のもとに、この会の第1部で山田三重子さんの『ソネリ四部作』が初演されました。思いがけなく長男の太祥君が来てくれて、三重子さんは嬉しかったと思います。練習の甲斐あって、バックのメンバーも総勢6人で三重子さんの朗読を含む4曲が初々しく演奏されたと思います。ピアノは、三重子さんと旧知の鈴木たか子さんが、練習、本番とも参加してくださいました。

夫の本家の祭事のために初めて韓国に行った三重子さんが、在りし日の夫の姿をまざまざと思い浮かべる気持ちが伝わるその歌の後、和連さんの志で、韓国の祭事の正式なしつらえが準備され再現されました。式の段取りの説明もていねいにして下さって、その後、祖先に捧げるために作って下さったご馳走を、習慣に従ってみんなで頂くところまで体験させてもらえたことは有り難いことでした。

これで「つくり小屋」のメンバーの作品が、全部1曲は世の中（！）に出たことになり、私はとても嬉しかったです。

以上、通信の8号でした。これから「めだか大学」のそれぞれの通信があれば、載せて行きたいと思いますので、原稿をお寄せください。（岡田京子）